**当院にて11C-MeAIB(研究) PET検査をお受けになった患者様へ**

　当院（滋賀県立総合病院）研究所では、サイクロトロンや合成装置という設備を用いPositron emission tomography（陽電子放出断層撮像法：PET）検査用の新規薬剤の合成を行い、さまざまな画像研究を行っています。

ブドウ糖代謝を評価する18F-FDG　PETは我が国でも保険診療として多くの患者様に行われています。FDGは多くの悪性腫瘍などの評価に用いる薬剤ですが、腫瘍以外にも炎症病変やそのほか様々の臓器や健常組織への取り込みがみられ、悪性腫瘍ではないのに“悪性腫瘍”が疑われてしまうこともあります。当院研究所で合成している11C-MeAIBは、アミノ酸の輸送システムを介する取り込みによりたんぱく質の合成の高まった腫瘍を評価することが可能なPET薬剤であり、当院におけるこれまでの数多くの検討により18F-FDG　PETとは異なった有用性が示されてきました。

　しかしながら、11C-MeAIBは放射性同位元素C-11の半減期（放射性物質が半分になるまでの時間）が約20分と短く、広く臨床応用するのが難しい薬剤です。

　このたび、米国アラバマ大学バーミングハム校（UAB）にて、C-11よりも使いやすい半減期118分のF-18で標識されたMeAIB（18F-MeFAMP）の開発が行われている中、当院の倫理委員会の承認を経て当研究所における11C-MeAIBの安全情報の一部をUABに提供することになりました。

　UABにおける研究は、院内合成の設備を有さない多くの施設においてもアミノ酸PETを行うことを可能にする薬剤メーカーからの供給体制にも結びつきうる非常に重要で有益な開発と考えられます。

　UABに提供する情報は、11C-MeAIBで検査を行った患者様の年齢、性別、薬剤の投与量、検査目的、有害事象の有無など、薬剤の安全性に関するものであり、個人が特定される情報や個々の臨床情報、画像などは一切含まれず、患者様に不利益はありません。そのため、11C-MeAIB (研究)PET検査を施行された患者様一人一人には、情報提供に関する承諾を得ることはいたしませんが、本件につきまして、質問などがある場合には、研究所担当医師までお問合せください。

令和4年8月

 滋賀県立総合病院　研究所　画像研究部門
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　研究責任者　　奥山　智緒